

国立国会図書館蔵白木屋呉服店刊行PR誌署名記事一覧

——「家庭のしるべ」「流行」をめぐって——

瀬 崎 圭 二

【解題】

一九九九年一月の東急日本橋店（白木屋の後身）の閉店や、二〇〇〇年七月のその後の経営破綻に象徴されるように、近年衰退を示している百貨店であるが、消費システムの近代化においてそれが果たした機能は、一九八〇年代の都市論の流行以来、様々な学問分野で取り沙汰されてきたことは言うまでもない。その成果の一つである土屋礼子「百貨店発行の機関雑誌」「百貨店発行の逐次刊行物リスト」（『百貨店の文化史—日本の消費革命』平成一一・一二・三世界思想社）の丹念な調査が示しているように、それぞれの呉服店／百貨店は商業戦略の一環としてPR誌を刊行していた。そのPR誌と「文学」とは決して無縁のものではなく、呉服店／百貨店の代表的存在であった三井／三越呉服店においては、拙稿「三越刊行雑

誌文芸作品目録—PR誌「時好」「三越」の中の「文学」（『同志社国文学』51 平成一二・一）で示したように、多くの文学者、知識人達が筆を執っていたことが確認できた。

本稿では、三井／三越呉服店と並び称されることの多い白木屋呉服店の刊行していたPR誌を対象に、その記事内容を「目録」という情報として明らかにしたい。白木屋PR誌の書誌的事項に関しては、前掲の土屋の論考や社史「白木屋三百年史」（昭和三二・三・一八 株式会社白木屋）等に既に記述があるので、それらが触れていない部分や、創刊や誌名、体裁変更の趣旨を中心に述べた。後の「目録」から分かるように、三井／三越同様、白木屋が刊行したPR誌に文学的言説が深く加担していることが理解できよう。「三越刊行雑誌文芸作品目録」では、都合上文学関連の記事しか挙げるこ

とができなかったが、今回の「目録」では、前回果たせなかった

文学) 以外の言説を積極的に拾つように努め、筆者、作者名が添えられた言説を全て取り上げ、署名記事一覽」という形をとった。近年、日本近代文学研究はカルチュラル・スタディーズの導入により、文学テクストの外部へとその分析対象を拡大しつつあるが、本目録が「文学研究」のみならず様々な学問領域に活用されれば幸いである。

前掲した土屋礼子の調査によれば、白木屋はこれから述べる「家庭のしるべ」以前にも袖珍本のPR冊子を発行したようであるが、^①白木屋呉服店のPR誌は、実質的には明治三十七年七月七日に発行された「家庭のしるべ」に始まると言えるだろう。奥付によれば、「家庭のしるべ」第一号は、編輯者山口笑昨、発行所富山房、印刷所東京印刷株式会社、価格一冊十二銭^②とある。社史によれば、山口笑昨は新潟で裁判所の判事を経験しており、その後白木屋店員になったという。^③ 版型はA5版、頁数を付された本文は八十二頁、広告等の頁を含めると百頁程の雑誌で、巻頭には白木屋店頭や当時のシヨウウィンドウの様子を撮影した写真が掲載されている。表紙絵は内山竹塘が担当し、読書する女性の姿が描かれている。「本誌発刊の必要」(目次では「発刊の趣意」と題した創刊の辞を引用しておこ)。

征露の師起りて以来、凡そ新たに現はるゝ雑誌にして、戦争の意義を寓せざる名称なく、既に発行せられつゝありしものと雖も、其多くは所謂武装して、国民敵愾の心に投せんことを勉めざるはなし。然るに本誌が、独り平和的家庭の榮として、猶ほ敢て読書界の新位置を要求せんとするものは、抑も故あり。

蓋し今日の戦報雑誌は、偏に目下の現象を描写して、夫の社会の反影たる任務に應ぜんとする者なり。然れども本社は更に一步を進めて、審かに今後の趨勢を照らし、戦後の情弊を未だ兆せざるに救ひ、健全なる思潮を將に起らんとするに契めんとする者なり。現代を写すと将来を契むると、皆それの必要はあるべし、而かも既に筆を執つて、苟くも事に此に従ふ、吾輩は遂に一時限りのパノラマたるに安ずる能はず、寧ろ趣味あり、生命あり、他日の結果を期して種子を下すの優れるを取らんとす。況んや家庭教育を施すの時期は、今日方さに到来して、其効果の挙げ易き、殆んど千歳一遇の觀あるをや。見よ。今回の開戦は、元寇以来の出来事にして、其民心に影響することの大なる、決して北条氏治下の民が、嘗て一たび経験せる所に譲らざるものあり。挙国一致して同胞の実始めて堅く、五千万人を打して一心となし、国を愛するの情日に切なり。而して此情の赴く所、奸悪、邪欲、虚偽等の諸悪徳は、悉く其形を潜め影を

失ひ、奉公義勇の美念之れに代りて、人の精神界を領するに至り、切に言へば、平生小紛争の弊害中に煩悶して、知らずく諸種の色を染め付けし人心は、一朝国敵の刺激を受けて、翻然自覚し、今や楚々たる原色に復し得たるなり。是れ豈教育に志ある者の、大に乘すべき好機会に非ずや。少なくとも我國民は方さに良心警発の時代に在るが故に、今日に於ける訓誡一日の効果は、平日に於ける鞭撻十日に優るものあるなり。是れ豈我家庭のしるべの、新たに生るべき好誘引に非ずや。抑も勝てる者は驕り易し。今日を以て戦捷後の我道德界を想ふに、頗る寒心すべきものあり、一時蟄伏せる諸欲念の勃発と共に、其増長の度とは、必らず開戦前に倍徙して、跳梁の勢当るべからず、漸く譎詐淫靡の風を養成して、人生事業の立脚地たる家庭の秩序を紊り、和楽を奪ひ、人心日に危くして、道心遂に泥ぶべし。故に苟くも教育に志ある者は、此際予め戒飾して、此狼藉を未然に防ぎ、戦捷国の人民をして、却つて忌はしき零落の惨に泣かざらしめんことを勉むるを要す。

要するに本誌は二の目的を有す、一は此良心警発の機を利用して、戦捷國民の新家庭を準備し、一は戦捷後の道德界を予想して、其弊害を未雨に彫繆す、即ち是れなり。その方法施設の如きは、之れを毎号の本誌に徴して可なり。

記事は「裁縫指南」、「室内裝飾」、「式法」「婚礼之部」、「茶道」「料理法」等、家庭の婦人向けの読み物が並び、「流行案内」もそれらと並列される。第二号で完結する青濤の小説「夏蜜柑」は、日露戦中の新婚生活を描いたもので、出征した夫とその妻の物語である。依然として「家庭」というチームが大きな流通を示していた明治三〇年代、この「家庭のしるべ」も家庭の中の女性を形象するべく力学を發揮したメディアであることは言うまでもない。

創刊号以降については、頁数が付された本文が第七号（明治三八・一・一）以後少し減少している以外は、雑誌の体裁は最終号である第十八号（明治三八・二・一〇）までほとんど変わらない。第三号（明治三七・九・一）から奥付に名を挙げられている大売捌所は、東京の東京堂、第九号（明治三八・三・一）からは京都の本田雲林堂（太田雲林堂と表記された巻号のものもある）、第十号（明治三八・四・一）からは東京の東海堂が加えられ、第十四号（明治三八・八・一）から再び東京堂と太田（本田？）雲林堂となる。後、表紙絵は稲田吾山、三浦北峽等が担当している。因みに第七号の口絵は寺崎広業、川合玉堂、付録の絵葉書（国会図書館所蔵本には欠）を磯野吉雄が担当し、磯野は第十一号の絵葉書も担当している。第十七号（明治三八・一・一〇）の絵葉書は表紙と同様三浦北峽が担当している。

記事は依然として婦人向けの読み物が掲載され、第一号から第十八号まで連載されるものもあり、体裁同様創刊から終刊を通じて大きな記事内容の変化はない。三越の「時好」に比すると、掲載された小説も日露戦の話題がその物語内容を大きく覆っていたり、先に挙げた「本誌発刊の必要」に如実に表れているように、個々の言説にもナショナリティを發揮しようとする力学が強固に働いている。

日露戦を終え、明治三十九年一月からは継続PR誌「流行」が掲載される運びとなる。「家庭のしるべ」創刊から数え、「流行」創刊号の巻号数は第三年第一号と表記されている。以下、「流行」刊行にあたっての「発刊の辞」を引用しておこう。

戦雲収まりて、平和の天地新たなる時、歳また恰も新たににして、新更に新を加へ。而してこの新天地の新年に於ける帝国日本は、戦捷の結果として、新たなる性質を享け、新たなる思想を養ひ、新たなる希望を抱き、而して新たなる衣帯して、新たなる世界の衿舞台に登れるなり。

現に世界の衿舞台に登る、吾輩吾世界を以て心となすの用意なくして可ならんや。世界を以て心となすの方法は多かるべきも、中に就て最も軽便なるは、有形にして眼に触れ易く、楽易にして心に快く、且つ最も多数の人に行渡るべき性質のものを選び、之れに托して連想の資となすに在るべし。是に於てか吾輩は常

に時様流行に注目するの必要を生ず。

時様流行の注目は、成るべく英米仏独に亘りて、普ねく世界を通観するを最も妙とす。然れども是れ或は実際に行ひ難き事なるべし、已むなくんば唯だ邦内に範圍を画り、其身之れに後れざらんことを勉めて可なり。是れ一見前意と相反するが如くなるも、而かも其実世界を連想するの資たるに於て、両者未だ嘗て相一致せずんばあらず。

日本が世界の大帝國となるや、政治外交の事は姑らく措きて、一人の来遊頓に頻繁を加へ来れり、想ふに此傾向は、年と共に漸く増大して、日本の位置、氣候、山川の所謂美点は益々その光華を添へ、遂に荒涼たる世界の為めに、一大樂園たるの觀を呈するに至るべし、是時に於て、世界の所有人物は此に會し、世界の所有時様は此に聚りて、炫服靚装、互に奇を衒ひ新を競ひ、而して機敏なる我國民は、容易に比較研究をなし其長を取り短を捨て、自から進んで新たなる時様を作り、彼れの余瀾を以て我れの波心となし、或は我れの残響を以て彼れの音原たらしむるを得べし、斯くて新陳の代謝いよ／＼繁くして、流れて休まず、行はれて戻らざらん平、常に世界を忘れざるに於て、時様流行も亦た余師ならずや。

流行に先んずるものは、能く時勢を制し得るものなり、流行に

後るゝものは、常に時勢に制せらるゝ者なり、苟も既に世界の
絵舞台に登りたる我々国民は、単に世界の趨勢を忘れざるに止
まらずして、進んで自から世界趨勢の原動力たらざるべからず、
而して世界趨勢の原動力となり得たると否とは、世界の交際界
が日本の時様流行に注目すると否とによりて之れを徴すべし、
時様流行の効用亦た大ならずや。乞ふ此文明に効用ある時様流
行の原動力をして、之れを我流行の、名譽に帰せしめよ。是れ
此新たなる年の頭の絵舞台に生れたる本誌の新たなる性質なり。
新たなる思想なり、而して新たなる希望なり。之れを発刊の辞
となす。

「家庭のしるべ」においては、家庭と国民国家との連結を強調
していたが、この「流行」の「発刊の辞」においては、家庭か
ら流行ノモードへとその趣旨がスライドし、現象としての流行
ノモードを殊更に国民国家へと連結させようとする力学が働いてい
ることが分かる。しかし、掲載された個々の記事を見渡すと、「家
庭のしるべ」で見られたような露骨なナショナル리티の顯示は多少
影をひそめ、それを前提とした上での家庭問題や、家庭における衣
服、流行ノモードのあり方についての記事が増加している。

「流行」創刊号についてだが、編輯兼発行者は引き続き山口笑昨、
発行所白木屋呉服洋服店、印刷所東陽堂支店、大売捌所東京堂、本

田雲林堂とある。版型はA5版、価格は一冊十二銭、頁数を付され
た本文は五十頁、その他巻頭に販売商品等の写真、巻末に白木屋呉
服店営業案内等を加えた構成となっており、巻末の広告、註文書等
を合わせると全一五〇頁程である。表紙は三浦北峡、口絵は寺崎広
業、附録の絵葉書は山本英春がそれぞれ担当している。表紙はしば
らく三浦北峡が描き、第四年あたりになると稲田吾山が担当するよ
うになる。版型は第三年第五号（明治三九・五・五）から菊版、第
四年一月号（明治四〇・一・五）からは、「本誌も亦時代の要求に
従ひ、光栄ある新年の一月号より紙面を拡大し、其の内容もまた漸
を以て改善し、真に吾が大帝国の首都に於いて発刊する所の流行誌
たるに愧ざらむことを期するものなりとす」^①、年の新なるとともに
本誌の体裁を新にす」と、およそ縦二五〇×横二二〇ミリの版型
に変更、第四年五月号（明治四〇・五・五）からはそれより少し大
判の、およそ縦二六〇×横二三〇ミリと、特異な版型となっている。
大売捌所は、第三年第四号（明治三九・四・五）より、東京堂と、
三越PR誌の大売捌所でもあった芸艸堂で定着する。「流行」の発
行部数は最も多い時で八千部であったといふ^②。三越の場合もそうで
あったが、「流行」を批評、紹介した記事を地方新聞から収集し、
紹介している巻号のものもある。

第三年から第四年までの特徴としては、『明治のおもかげ』（昭和

二八・一一・三〇（山王書房）で知られる鷺亭金升が第三年第二号（明治三九・二・五）から「三題話」を連載している（金升は第八年あたりにもエッセイを寄稿している）くらいで、前述の通り、第四年一月号からは版型も変わり、先に挙げた「年の新なるとともに本誌の体裁を新にす」という巻頭言とは裏腹に徐々に署名記事も減少して、シンプルな体裁になっていく。このような状態から大きな変化を遂げたのが第五年一月号（明治四一・一・一五）で、新たに編集者に鶴飼久吉を迎え、編集者鶴飼、発行者山口笑昨のもとに版型、編集方針も大きく変わる。第五年一月号巻頭に山口物外（発行者の山口笑昨と推測される）の『流行』改良の顛末」という文が寄せられているので、引用しておこう。

（前略）

御存知の通り本誌が生まれましたのは、忘れも致しません日露戦争の始まりました三十七年の七月、世の中は戦争で夢中になつて居りまして生れる本もくも戦争実記の類ひでういます、その中へ本誌が『家庭のしるべ』といふ名で生まれましたのでういます。実の所大変世の中に遠離れた拙者のやつでういます、記者の存じますには、実に前代未聞の国難に罹つてのことでういますから、全国挙て戦事に熱申しますのは無理からぬことではういます、偕其の大強国を相手に戦争でも致します場合に

は、先内を充実ならしめ、持長して掛りませんと、恰も長途の旅行に一日二日脚力一ぱいに歩いて、牛程蹇や鞋傷に悩んで呻吟言ふやうのことが有つては不可ない。それには各々其の分を守つて悠悠迫らぬ態度が肝要であると存じまして、爰に『家庭のしるべ』を生みまして、裁縫、育児、看護、応急治療其外時事小言等の欄を設けまして、世の中と反対のものを出したのでういました。

それから彌々戦争も捷ち了せて、平和克復と為りましてから、本誌の題も『流行』と改めまして、間もなく昨年の一月から御蔭さまで体格も大きくなりましたが、何がさて記者も種々な仕事の間で育てますので、思ふやうに充分な養育も能ませんで、平常も遺憾に懐ふことばかりでありましたが、此の一月からは文壇列星の御援助もありまして、身丈も大きくなり、益々内容も健全に此の御目出度い新年を迎へることとなりましたのを見ますと、兎も角も記者が足りない乳で牛乳や貰ひ乳で五歳まで育て、まゐりました身には何ほど嬉しいかお察し下さい。

此れまでは本誌の生いたちから今日までの成行をお礼かたぐく申上げましたので、初これから愛読諸君にお願い申したいのは本誌の行く末でういます。

前にも申上げましたとふり、将来は学者や経験に富んだかた
くが、お心添えになりまして、謂はゞ幼稚園で未成語交りの
唱歌を唄つたり、脚元不整な体操を初めとして、おひおひ小学、
中学と順を経て進んでまゐるやうに為りませうが、其所が幼稚
のことでムいますから、足らはぬ所は飽までも御口添を願ひま
して、又充分御叱りも願ひまして情願読者諸君の御氣にゐるや
うに育てあげたいと、そればかり念じて居ります。

(後略)

第五年以後の書誌的事項を整理しておく、前述のように編輯者
は第五年一月号から鵜飼久吉が担当、発行者は第五年五月号(明治
四一・五・一)から本多二郎^⑤へ、本多は第五年七月号(明治四一・
七・一)から編輯も担当している。一年程本多が編輯者と発行者を
担当した後、第六年七月号(明治四二・七・一)から勝田良雄に、
第六年九月号(明治四二・九・一)からは宮川安信、第七年一月号
(明治四三・一・一)から再び勝田良雄、第八年一月号(明治四
四・一・一)からは初田伴作、第九年十月号(大正元・九・二五)
からは高野復一、「白木タイムス」と誌名を変えた第十五卷(第十
三巻の表紙から「第 巻第 号」と表記されている)第三号(大正
七・三・一)からは近藤英治、第十五巻第十一号(大正七・一・一・
一)から米川勇太郎、第十六巻第四号(大正八・四・一)から吉田

福太郎が担当している。第五年一月号から「白木タイムス」に至る
までは、ほぼ毎号B5版で定着することとなる。価格は第十一年十
月号(大正三・一〇・一)から一冊十五銭と値上げられる。第五年
以降の表紙は、古田立次、勝田蕉琴、宮川安信、佐野雪窓等が担当
している。

確かに第五年一月号から一年余りは、塚原洪柿園、山田美妙、二
葉亭四迷、徳田秋声、饗庭簾村、佐藤紅緑、島崎藤村、戸川残花、
岡野知十等の文学者や、坪井正五郎、淡島寒月、鍋木清方等、知識
人、文化人、芸術家等の談話やエッセイが寄せられ、本稿における
「目録」作成も五年以降にその意義を深く見出せると言えよう。
第五年八月号(明治四一・八・一)から頻繁に筆を執っている大島
宝水は岡野知十門下の俳人であるが、「流行」誌上では小説を中心
に寄稿している。第六年に至つて再び署名記事は減少するが、第七
年一月号から、長谷川時雨、大塚楠緒子、小川未明、山岸荷葉、尾
島菊子、土岐哀果、岡田八千代、田村俊子等が小説を担当し、その
内容はともかく、執筆者の名だけは充実を示していると言えよう。
当時既に脚本家としての地位を確立していた長谷川時雨は、「青い
桃」(第七年一月号、明治四三・一・一)、「松の葉」(第七年十月号
明治四三・一〇・一)、「楓の葉」(第八年五月号、明治四四・五・
一)と三作を寄せている。確認したところ、小川未明「花の都へ」

(第七年五月号 明治四三・五・一)は、『定本 小川未明小説全集』(昭和五四・四・六一〇・六 講談社)には所収されていない。

以後第十年あたりまでコンスタントに小説が掲載されていたが、第十一年に至ると小説は掲載されなくなり、第十四巻第七号(大正六・七・一)から確認した範囲での最後の号である第十六巻第七号(大正八・七・一)まで署名記事は全く掲載されず、商品広告や流し紹介の頁が雑誌を覆うようになり、前述の通り、第十五巻第三号からは「流行」から「白木タイムス」へと改題している。雑誌巻頭に掲載された「改題の詞」を引用しておく。

軽風春を送り来つて、百花是より将さに妍を競はむとす。茲に陽春三月、弊店の増築工を竣へ、店内諸般の設備亦整頓を告ぐるに至りぬ。今や弊店は、方に春粧を凝らして華客各位に見え、愈々活動の実を挙げて華客平素の眷恩に酬いむとはするなり。本誌『流行』亦此機会に於て、改題して白木『タイムス』と称し、業務の拡張に伴つて愈々機敏に且適切に流行界の近況を報じ、弊店が如何に時運に依じて内容の充実に努めつゝあるかを披瀝せむとす。乃ち本誌改題の所以を叙し併せて華客各位倍旧の眷顧を希ふ。

確認した範囲では、「白木タイムス」は毎月一日に発行され、ほ

とんど商品広告や流行案内によつて誌面が構成され、署名記事が掲載されることはない。大正十年九月以降の白木屋のPR誌は、内外からの投書を掲載した「白木週報」という社内報に切り替えられるため、「白木タイムス」もこの頃廃刊されたものと推測される。大正から昭和にかけて「婦人の子供」というPR誌も発行されたようだが、^⑦「白木週報」「婦人の子供」に関しては全くの未確認である。

繰り返すが、後に挙げる「目録」の意義は第五年第一号以後にあり、それ以前と比して、執筆者や記事内容の充実が伺える。とは言つても、尾崎紅葉のサポートによつてスタートし、巖谷小波、森鷗外等を会員とする流行会を擁していた三井/三越の「時好」や「三越」と比較すると、やはり見劣りすることは否めない。発行部数も、「時好」が一万余部、「三越」が五万余部であつたのに対し、前述したように、「流行」は最も多い時で八千部しか発行していない。「時好」「三越」同様、「流行」誌上でも数度懸賞文芸作品を募集しているが、短歌、俳句等が中心の小規模なもので、『文芸の三越』(大正三・一・一〇 三越呉服店)を発行するに至つた三越のそれと比較すると、商業戦略上での「文学」の利用も前面化されていないと言えるだろう。

なお、本稿の目的は目録作成と書誌的事項を記述する点にあつたので、掲載された文学テキスト等の内容については敢えて深入りし

なかつた。特にナシヨナリズムとの関わりについては注意すべきだが、それらの分析については別稿に譲りたい。

注

- ① 土屋礼子「百貨店発行の機関雑誌」、『百貨店の文化史—日本の消費革命』平成二一・二二・二三 世界思想社）参照。
- ② 紫楼生（前掲の土屋によれば浜田四郎）「広告雑誌のいろ／＼」（『実業世界太平洋』4—3 明治三八・二）は「三越の「時好」や白木屋の「家庭のしるべ」等、当時刊行されていた種々の広告雑誌は「定価は明記してある者の、其実は無代価で配るのである」と述べ、「何故定価を付して売物同様に装はなければならぬか」といふに、これは雑誌発送の際通信省より第三種郵便物として認可せらるゝ特点是、一般公衆に売弘むるといふ条件を具へなければならぬためである。もしも無代価で配布する者、非売品とすれば、通信省は公益を利す者と認めずして一冊五厘の郵税にて郵送することを認めないから詮方がない。発行者は形式上定価を付して発行して居るのである」といふが、「家庭のしるべ」や「流行」が無代価で配布されていたかどうかは定かではない。
- ③ 『白木屋三百年史』(昭和三三・三三・一八 株式会社白木屋)参照。
- ④ 『白木屋三百年史』(前掲書)参照。
- ⑤ 社史『白木屋三百年史』(前掲書)によれば、本多二郎は白木屋店員で、明治四一年に設けられた店務調査会の委員も担当している。社史によると、本多は「京都帝国大学を卒業後、渡米して、アメリカ及びカナダにおいて、六年間にわたつて同地の百貨店に勤務、彼地の百貨店の実態を学んで帰朝、当時ようやく百貨店の近代化を考え実行しはじめようとしていた三越及び白木屋から入店の懇請をうけて、結局白木屋に入

店」したが、店務調査会による機構改革の失敗のありを受け、新智識を生かせず「流行」の編集などに携わつた後、「奥田専務時代になつて雑貨課長として返り咲いたが、やがて退店した」といふ。「奥田専務」とは、大正八年から大正一〇年まで専務取締役であつた奥田竹松である。

- ⑥ 『白木屋三百年史』(前掲書)参照。
- ⑦ 土屋礼子「百貨店発行の機関雑誌」、『百貨店発行の逐次刊行物リスト』、『百貨店の文化史—日本の消費革命』前掲書)参照。
- ⑧ 拙稿「三越刊行雑誌文芸作品目録—P・R誌「時好」、「三越」の中の文学」(『同志社国文学』51 平成二二・一一)を参照のこと。

付記

資料の閲覧にあつては国立国会図書館に御協力いただいた。

【目録】

凡例

一、本目録は白木屋呉服店が刊行した「家庭のしるへ」、「流行」、「白木タイムス」に掲載された署名記事の目録で、国立国会図書館に所蔵されているPR誌を対象に作成した。よって国会図書館に所蔵されていない巻号数のものについては未確認であることを断つておく。確認した範囲は以下の通りであるが、確認した範囲での「白木タイムス」には署名記事が掲載されていないので、本目録では省略した。

「家庭のしるへ」

第一号から第十八号まで

「流行」

第三年第一号から第十二号まで

第四年一月号から十二月号まで

第五年一月号から十二月号まで

第六年一月号から三月号まで、同五月号から九月号まで、同十一月号から十二月号まで

第七年一月号から二月号まで

同四月号から十一月号まで

第八年一月号から十二月号まで

第九年一月号から六月号まで、同八月号から十二月号まで

第十年一月号から四月号まで、同六月号から十二月号まで

第十一年一月号から十二月号まで

第十二年一月号から十二月号まで

第十三年第二号から第十二号まで

第十四卷第一号から第十二号まで

第十五卷第一号から第二号まで

「白木タイムス」

第十五卷第三号から第四号まで、同第八号から第十二号まで

第十六卷第二号から第七号まで

一、署名を添えた記事はジャンルを問わず全て挙げた。

一、記事を書いた筆者の身分、所属等は全て省略した。

一、筆者名は雑誌の表記のものを最初に記し、雅号、ペンネームについては、判明した場合のみ、現在一般に流通する筆者名を括弧内に記した。

一、記事のタイトルや副題の記述については、原則として目次の記述にはよらず、全て記事冒頭の記述によった。タイトルの中に「承前」等の語があるのもその結果である。タイトルに付された振り仮名は省略した。

一、詩歌、俳句等韻文に関しては一人の作者でタイトルを持つてい

る場合のみ挙げた。

一、詩歌、俳句等韻文に関しては一人の作者でタイトルを持つてい

る場合のみ挙げた。

一、詩歌、俳句等韻文に関しては一人の作者でタイトルを持つてい

る場合のみ挙げた。

一、読者による投稿記事の類は全て省略し、それに合わせて掲載された選者等の作品についても省略した。

一、記事名の下の頁数は、全て頁数を付された本文の頁数である。

一、原則として旧漢字は新漢字に改めた。

「家庭のしるべ」

【第一号（明治三七・七・七発行）】

松浦伯直伝「室内装飾」(九頁下段)一(二頁)

丈八述「笑門」(二三頁下段)二(八頁)

勇猛精進庵「茶道」(四〇頁下段)四(五頁)

青濤「夏蜜柑」(五六頁六頁)

【第二号（明治三七・八・七発行）】

青濤「夏蜜柑（承前）」(一一頁三頁)

松浦伯直伝「室内装飾（承前）」(一四頁一五頁)

漱石「式法 婚礼の部」(一六頁三三頁上段)

丈八述「笑門」(二七頁二九頁)

勇猛精進庵「茶道（承前）」(四四頁下段)四(七頁上段)

【第三号（明治三七・九・一発行）】

勇猛精進庵「茶道（承前）」(一一頁一四頁)

丈八述「笑門」(一七頁二〇頁上段)

雑録（玄斎「寄書」）(三三頁下段)三(七頁上段)

松浦伯直伝「室内装飾（承前）」(四一頁四二頁上段)

むら「敵味方」(四五頁五五頁)

【第四号（明治三七・一〇・一発行）】

物外（山口物外）「裁縫指南（承前）」(四一頁三頁)

北盧訳「英米貴女紳士交際法」(二二頁下段)二(五頁上段)

「雑録」（吳羽生「寄書」）(二五頁下段)二(八頁上段)

丈八述「笑門」(三五頁下段)三(八頁)

漱石「式法 婚礼の部（二号のつゞき）」(三九頁四一頁)

叢軒「育児法」(四七頁五〇頁上段)

無名子「犠牲」(五一頁六三頁)

【第五号（明治三七・一一・一発行）】

物外（山口物外）「裁縫指南（承前）」(四一頁二頁)

松浦伯直伝「室内装飾（三号のつゞき）」(一八頁一九頁)

漱石「式法 婚礼の部（前号のつゞき）」(二〇頁二二頁)

丈八述「笑門」(三一頁三四頁上段)

北盧訳「英米貴女紳士交際法（承前）」(三四頁下段)三(七頁上段)

勇猛精進庵「茶道（二号のつゞき）」(三七頁下段)三(九頁)

叢軒「育児法（前号のつゞき）」(四〇頁四四頁上段)

月下人「魔力」(五六頁六五頁)

【第六号（明治三七・二一・一発行）】

物外（山口物外）「裁縫指南（前号のつゞき）」（四―一五頁）

丈八述「笑門」（二二頁下段―三〇頁）

叢軒「育児法」（三八頁下段―四二頁上段）

漱石「式法 婚礼の部（つゞき）」（四二―四六頁）

紫生「愛の光」（五一―六二頁）

【第七号（明治三八・一・一発行）】

春人「朝風呂」（四―一六頁）

北盧「英米貴女紳士交際法（承前）」（二二―二四頁）

叢軒「育児法（前号のつゞき）」（二五―二七頁）

丈八述「笑門」（二八―三〇頁）

勇猛精進庵「茶道（主方の続）」（三二―三三頁上段）

「雑録」（中村生「諸国風俗と方言」）（三三頁―三六頁）

物外居子（山口物外）「裁縫指南」（三八―四五頁）

【第八号（明治三八・二・一発行）】

物外（山口物外）「裁縫指南（承前）」（四―一〇頁）

漱石「式法 婚礼の部（六号の続）」（一七―二二頁上段）

北盧「英米貴女紳士交際法（承前）」（二五―二六頁）

叢軒「育児法（前号の続き）」（二七―二九頁上段）

丈八述「笑門」（二九頁下段―三三頁上段）

青曼「高利貸」（三五―四六頁）

【第九号（明治三八・三・一発行）】

物外（山口物外）「裁縫指南（承前）」（四―七頁）

叢軒「育児法（前号の続き）」（一二―一三頁）

丈八「笑門」（一四―一六頁）

漱石「式法 婚礼の部（前号の続）」（一八頁下段―二二頁上段）

笑阿弥「文苑」（二二―二六頁）

松浦伯直伝「室内装飾法（棚飾）」（二七―二九頁）

勇猛精進庵「茶道」（三〇―三二頁）

春人「女記者」（三五―四四頁）

【第十号（明治三八・四・一発行）】

物外（山口物外）「裁縫指南（承前）」（四―九頁）

叢軒「育児法（承前）」（二三頁下段―二五頁）

丈八「笑門」（紫雄作「伊勢参り」）（二六―二九頁上段）

笑阿弥「文苑」（三一―三五頁）

春人「おぼろ夜」（三九―四九頁）

【第十一号（明治三八・五・一発行）】

物外（山口物外）「裁縫指南（承前）」（四―一〇頁）

叢軒「育児法（前号の続）」（一八―二〇頁上段）

松浦伯直伝「室内装飾法（棚飾 第九号のつゞき）」（二三―二四

頁)

丈八「笑門」(二五～二九頁)

麗水(遅塚麗水)「籤当」(三五～四六頁)

【第十二号(明治三八・六・一発行)】

物外(山口物外)「小説 裁縫指南(承前)」(四～一七頁)

勇猛精進庵「茶道(第九号のつゞき)」(一五～一七頁)

叢軒「育児法(前号の続)」(二四頁下段～二七頁上段)

丈八「笑門」(二七頁下段～三〇頁)

松呂庵「雜録」(三三～三四頁)

なにがし「パノラマ」(三五～四四頁)

【第十三号(明治三八・七・一発行)】

物外(山口物外)「小説 裁縫指南(承前)」(五～二二頁)

漱石「式法 婚礼の部(九号の続)」(二七頁下段～二九頁)

丈八「笑門」(二〇～二三頁上段)

水藻「化学的化粧法」(二二頁下段～二五頁上段)

叢軒「育児法(前号の続)」(二八～二九頁)

くれがし「隣座敷」(三三～四四頁)

【第十四号(明治三八・八・一)】

物外(山口物外)「小説 裁縫指南(承前)」(五～一〇頁)

松浦伯直伝「家内装飾法(第十一号のつゞき)」(二三頁下段～二五

頁)

叢軒「育児法(前号の続)」(一六～一七頁)

丈八述「笑門」(一八～二〇頁)

水藻「化粧法」(三六頁下段～三八頁)

青濤「船世帯」(三九頁～四七頁)

【第十五号(明治三八・九・一)】

物外(山口物外)「小説 裁縫指南(承前)」(五～一四頁)

叢軒「育児法」(二〇～二二頁)

丈八「笑門」(二二～二三頁)

「雜録」(宇賀の浦人、電車の中) (二五～三〇頁上段)

松浦伯直伝「室内装飾法」(三三頁下段～三八頁上段)

青濤「船世帯(承前)」(四一～四九頁)

【第十六号(明治三八・一〇・一〇発行)】

水藻「化粧法」(二二頁下段～二五頁)

丈八「笑門」(一六～一九頁上段)

叢軒「育児法」(一九頁下段～二二頁)

「雜録」(宇賀の浦之助「妻君のこと」) (二四～二九頁)

勇猛精進庵「茶道」(三一～三三頁)

青濤「生別」(三四～四二頁)

【第十七号(明治三八・一一・一〇発行)】

山口物外「小説 裁縫指南(十五号のつゞき)」(五―一頁)

杉浦伯直伝「室内装飾法(つゞき)」(一五―一七頁)

丈八「笑門」(一八―二〇頁)

水藻「化粧法」(二一―二三頁上段)

「寄書」(六花生「悪魔」)(二八頁下段―三四頁)

叢軒「育児法」(三五―三八頁上段)

雨六生「雑録」(三八頁下段―四三頁)

青濤「生別」(四四―五一頁)

【第十八号(明治三八・二二・一〇発行)】

なにがし「写真」(四―一二頁)

叢軒「育児法」(一九頁下段―二二頁上段)

丈八「笑門」(二二頁下段―二三頁)

勇猛精進庵「茶道の話」(二四―二六頁)

笑阿弥「内と外」(三六―四一頁)

「流行」

【第三年第一号(明治三九・一・五発行)】

竹芝浦人(遅塚麗水)「凱旋馬」(四―一頁)

水藻「化粧法」(二三頁下段―二六頁上段)

物外(山口物外)「過去に於ける流行の趨勢」(三七―四〇頁)

春人「花売娘」(四一―五〇頁)

【第三年第二号(明治三九・二・五発行)】

物外(山口物外)「過去の流行に就て」(一―一〇頁)

鷺亭金升「新年の河」(二三頁)

鷺亭金升「三題はなし」(二四―二七頁上段)

西尾麟慶講演 今村次郎速記「白木の大黒」(二八―三五頁)

森本春子「衣服」(二六―三八頁)

春人「花売娘(前号のつゞき)」(四三―五二頁)

【第三年第三号(明治三九・三・五発行)】

物外(山口物外)「過去の流行に就て(承前)」(一―五頁上段)

森本春子「衣服」(二〇頁下段―二二頁上段)

西尾麟慶講演 今村次郎速記「白木の大黒(つゞき)」(二七―三二頁)

一記者「読川柳点」(三三―三五頁上段)

鷺亭金升「三題はなし」(三五頁下段―三八頁)

稲岡奴之助「理想の夫」(三九―五一頁)

【第三年第四号(明治三九・四・五発行)】

物外(山口物外)「過去の流行に就て(承前)」(一―三頁上段)

西尾麟慶講演 今村次郎速記「白木の大黒(つゞき)」(一―二二頁)

物外(山口物外)「過去に於ける流行の趨勢」(三七―四〇頁)

金升(鶯亭金升)「三題はなし」(二四～二五頁)

一記者「読柳樽(前号のつゞき)」(二六～二七頁)

森本春子「衣服」(二八～二九頁上段)

春人「春怨」(三〇～四二頁)

【第三年第五号(明治三九・五・五発行)】

物外(山口物外)「過去の流行に就て(承前)」(一～三頁)

桃川燕玉講演 今村次郎速記「桃山の花見」(一～一六頁)

鶯亭金升「三題話」(一八～二二頁上段)

森本春子「衣服(承前)」(二二頁下段～二二頁)

くれがし「奴」(二三～三〇頁)

【第三年第六号(明治三九・六・五発行)】

山口物外「過去の流行に就いて(承前)」(一～四頁)

桃川燕玉講演 今村次郎速記「桃山の花見」(一〇～一七頁)

森本春子「衣服(承前)」(一八～二〇頁)

文の屋述「三題噺」(二二頁)

一記者「読川柳多留」(二二～二三頁)

千つかの里人「洗心鯉」(二六～三七頁)

【第三年第七号(明治三九・七・五発行)】

山口物外「過去の流行に就いて(承前)」(一～六頁)

森本春子「衣服」(一〇～一一頁上段)

鶯亭金升「三題話」(二二～二四頁)

兩六生「かたびら」(一七～一八頁)

桃川燕玉口演 今村次郎速記「浅妻船」(二〇～二六頁)

一記者「読柳多留」(二七頁)

青影「女教師」(二八～三六頁)

【第三年第八号(明治三九・八・五発行)】

山口物外「過去の流行に就いて(承前)」(一～五頁上段)

反哺齋作「昔噺」(一一頁下段)

桃川燕玉口演 今村次郎速記「浅妻船」(二二～二八頁)

鶯亭金升「三題話」(二二～二三頁)

森本春子「衣服」(二三頁)

一記者「読柳多留」(二五頁下段～二七頁上段)

宗阿弥「栄華の夢」(二八～三六頁)

【第三年第九号(明治三九・九・五発行)】

物外居子(山口物外)「夏瘦」(一～六頁)

鶯亭金升「三題話」(八頁下段～一〇頁上段)

森本春子「衣服」(一〇頁下段～一一頁)

一記者「読柳多留」(一二～一四頁上段)

桃川燕玉口演 今村次郎速記「浅妻船」(一六～二二頁)

奴之助(福岡奴之助)「霊薬」(二二～三三頁)

【第三年第十号(明治三九・一〇・五発行)】

山口物外「過去の流行に就いて(前々号のつゞき)」(一～四頁上段)

猶興生「家具の構造と寝具」(一〇～二二頁)

鷺亭金升「三題話」(二三～四四頁)

一記者「読柳多留」(二六～二七頁上段)

老鷺居「店ざらし」(二七頁下段)

雨六生「妻君と御相談」(二八～二九頁)

宗阿弥稿「栄華の夢(承前)」(二〇～二九頁)

【第三年第十一号(明治三九・一一・五発行)】

山口物外「過去の流行に就て(承前)」(一～三頁)

鷺亭金升「三題ばなし」(九～一〇頁)

鷺亭金升「七五三吟」(一〇頁下段)

桃川燕玉口演 今村次郎速記「大岡政談 念仏取戻し」(二五～二八頁)

篠山吟葉「森の声」(一九～四〇頁)

【第三年第十二号(明治三九・一二・五発行)】

山口物外「過去の流行に就て(承前)」(一～四頁上段)

桃川燕玉口演 今村次郎速記「大岡政談 念仏取戻し(承前)」(六

頁下段～一〇頁)

篠山吟葉「翌朝」(二五～二九頁)

【第四年一月号(明治四〇・一・五発行)】

野崎柴兮 星野麦人「春ころも」(九頁)

吟葉(篠山吟葉)輯「飾り藁」(九頁下段～一〇頁)

さんえふ(篠山吟葉)「新年末」(一一～二〇頁)

それがし「初日影」(二六～三八頁)

【第四年二月号(明治四〇・二・五発行)】

雨六「梅見小袖」(二六～二八頁)

篠山吟葉「霊鏡」(三三頁下段～四九頁)

【第四年三月号(明治四〇・三・五発行)】

桃川燕玉口演「勸善常世物語」(一六～三七頁)

春人「新妻」(四五～五六頁)

【第四年四月号(明治四〇・四・五発行)】

(署名記事なし)

【第四年五月号(明治四〇・五・五発行)】

桃川燕玉口演「勸善常世物語」(第四年三月号のつゞき)(六～二四頁上段)

【第四年六月号(明治四〇・六・五発行)】

桃川燕玉口演「勸善常世物語」(第四年五月号のつゞき)(一〇～二〇頁)

【第四年七月号（明治四〇・七・五発行）】

井手馬太郎談「圖案に就て」（「諸家訪問録」）（三〜七頁）

松野秀子「涼み台」（一四〜一八頁）

桃川燕玉口演「勸善常世物語（つゞき）」（二〇〜二三頁）

【第四年八月号（明治四〇・八・五発行）】

山口物外「東博演芸館に新瀉芸妓出演の顛末」（表紙裏〜一三頁）

前田健次郎談「図案界の現在と将来」（二五頁下段〜三〇頁上段）

【第四年九月号（明治四〇・九・五発行）】

一記者「文様圖案に就いて一般の嗜好」（表紙裏〜五頁）

吉武栄之進談「染織界の現状」（「諸家訪問録」）（九〜二〇頁）

【第四年十月号（明治四〇・一〇・五発行）】

渡辺紫葉「指輪」（九〜一五頁）

市川左団次談「諸家訪問録」（二一〜二五頁上段）

【第四年十一月号（明治四〇・一一・五発行）】

物外迂夫（山口物外）「深川芸者の扮装」（一五〜二二頁）

【第四年十二月号（明治四〇・一二・五発行）】

某婦人談「顔と着物の配色」（一七〜二〇頁上段）

桃川燕玉口演「勸善常世物語（つゞき）」（二〇頁上段〜二六頁上段）

段）

【第五年一月号（明治四一・一・一五発行）】

山口物外「流行」改良の顛末」（一〜二頁）

塚原洪柿園「時代と服装及其調和」（八〜一二頁上段）

竹越三叉「装身具流行の源泉」（二頁上段〜一四頁下段）

山田美妙「日本婦人今後の服装」（一四頁下段〜一八頁上段）

大塚楠緒子「室内に於ける衣裳」（一八頁上段〜一九頁）

三宅花圃「服装の色合と模様」（二〇〜二二頁上段）

楽斎（藤波楽斎）「喜劇脚本 良人征伐」（二二頁下段〜三二頁上段）

段）

久良岐（阪井久良岐）吟「新風俗詩」（三五頁下段〜三六頁上段）

【第五年二月号（明治四一・二・一発行）】

鵜飼天淵「衣裳と道徳」（一〜三頁）

Y S 生「色と模様」（四〜六頁下段）

戸川残花「流行衣裳茶談」（七〜九頁下段）

藤間勘右衛門「衣裳の着かた」（九頁下段〜一二頁下段）

藤沢浅次郎「舞台上に於ける着装上の苦心」（一二頁下段〜一五頁上段）

段）

木村俊秀「人体の各部と服装の調和」（一五頁上段〜一八頁）

アーサー、デビー談「毛織物と日人嗜好の向上」（一九〜二二頁上段）

段）

竹越三叉「装身具流行の源泉（承前）」（二二頁上段〜二四頁上段）

山田美妙「日本婦人今後の服装」(二四頁上段～二六頁)

藤波染斎「呉服の間(酒井雅楽様の御殿)」(二七～三三頁下段)

真可禰(関谷真可禰)「水仙の歌に就て」(三四頁下段～三七頁下段)

【第五年三月号(明治四一・三・一発行)】

鶴飼天淵「流行の代償(高い流行と安い流行)」(一～三頁)

岡村天籟「如何にせば美人たるを得べきや」(四～六頁上段)

一記者「婦人の扮装」(六頁上段～七頁上段)

坪井正五郎「諸人種婦人の身だしなみ」(七頁下段～一〇頁上段)

二葉亭四迷「露国の流行と我国流行の前途」(一〇頁下段～一二頁上段)

徳田秋声「流行座談」(一二頁下段～一三頁下段)

小峰邦寿「衣裳と色合」(一三頁下段～一五頁下段)

土肥慶蔵「美貌術に就て」(一五頁下段～一七頁上段)

喜多村緑郎談「化粧の方法に就て」(一七頁下段～二〇頁上段)

新橋花の家の女将談「衣裳の好み」(二〇頁上段～二二頁上段)

戸根愛子談「髪結びひやつ」(二二頁下段～二五頁)

染斎(藤波染斎)「敵討十軒店」(二六～三五頁)

【第五年四月号(明治四一・四・一発行)】

山口物外「蘆出模様」(一～三頁)

山口物外「六歌仙」(三～五頁)

饗庭簞村「流行させて見たいと思ふもの」(九～一〇頁下段)

淡島寒月「流行は人の不用意を襲ふ」(一〇頁下段～一三頁下段)

佐藤紅緑「流行に就ての予の希望」(一三頁下段～一七頁上段)

幸堂得知「芝居に用ゐる衣裳の変遷につきて」(一七頁上段～一九頁)

頁)

島崎藤村「玩具の話」(二〇～二三頁上段)

藤沢浅次郎「舞台に於ける化粧の苦心」(二三頁上段～二五頁上段)

段)

河瀬元九郎「如何にせば美容たるを得べきか」(二五頁下段～二九頁上段)

桔梗や千代子「花流界の流行」(二九頁上段～三〇頁)

染斎(藤波染斎)「新作脚本 滑稽「夫婦」」(三四～四八頁上段)

【臨時増刊(明治四一・四・二三発行)】

(署名記事なし)

【第五年五月号(明治四一・五・一発行)】

塚原洪柿園「時代と服装」(四～七頁上段)

杉孫八郎談「上流婦人の社交と服装」(七頁上段～九頁下段)

鏡木清方「絵画の美人と活美人」(九頁下段～一一頁)

新橋花月女将「衣裳のうつり」(一二～一四頁下段)

佐藤紅緑「流行に就ての予の希望(承前)」(二四頁下段)一八頁上段)

信田葛葉「文士の服装」(一八頁)

榊原蕉園「衣裳の絵」(一九)二〇頁上段)

斎藤陽子「色と柄と地の三流行」(二〇頁上段)二二頁上段)

高山菊代「衣服の美と家庭裝飾の美」(二二頁上段)二四頁上段)

秦利舞子「衣装の美観念」(二四頁下段)二七頁上段)

楽斎(藤波楽斎)「小説 奇薬妙薬」(二八)三七頁)

【第五年六月号(明治四一・六・一発行)】

一記者「本黒八千代染の由来」(四頁下段)七頁下段)

戸川残花「趣味と実用」(二二)二三頁)

遅塚麗水談「美人と風俗人形」(一四)一七頁)

市川左団次段「若い婦人の衣裳」(一八)一九頁下段)

本田春子「裁縫に於ける苦心のかずく」(一九頁下段)二三頁下段)

新橋吉田川女將談「花柳界の流行」(二三頁下段)二六頁上段)

高田楨三夫人談「衣服の涼しい色」(二六頁上段)二七頁上段)

日向きん子談「洋装の日本婦人と和装の外国婦人」(二七頁下段)

二九頁)

らく生「流行そゞろ言」(三〇)三四頁上段)

信田葛葉「俳句上の服装」(三四頁上段)三五頁)

楽斎(藤波楽斎)「蘆手日記」(三六)四六頁)

【第五年七月号(明治四一・七・一発行)】

川上貞奴談「巴里の贅沢競べ 附たり欧州に於ける日本の流行」

(二二)一八頁下段)

伊藤龍涯談「婚礼の今昔」(一八頁下段)二二頁上段)

吉村千鶴子談「衣服の見立」(二二)二三頁)

有馬男爵夫人談「衣裳の模様」(二四)二六頁下段)

大野洒竹談「新婚旅行と衣服」(二六頁下段)二九頁上段)

清元延寿太夫談「音曲家の衣服」(二九頁上段)三〇頁)

一記者「文士と医士の婦人観」(三一)三三頁上段)

平山蘆江「支那服の流行」(三三頁上段)三三頁)

楽斎(藤波楽斎)「新作落語 白木屋」(三四)四二頁)

【第五年八月号(明治四一・八・一発行)】

戸川残花「図案と文芸」(一)四頁)

三輪善兵衛談「白粉化粧に於ける生彩」(四)九頁)

高木富子談「色の流行と形の流行」(九)一一頁)

岡野知十「女流作家が作中の服飾」(一二)一六頁)

大島宝水「当世浮世風呂」(一七)二三頁)

唐沢新助 水上規矩夫「牛吼馬嘶義」(二三)二七頁)

- 【第五年九月号（明治四一・九・一発行）】
 大島宝水「演劇より得る衣裳の選択」（一～二頁）
 進藤道太郎談「欧米に於ける訪問の心得」（三～八頁）
 河野閑子談「和服と洋服」（八～二二頁）
 三蝶生（大島宝水）「帳場格子」（二二～二六頁）
 戸川残花「御殿女中の昔話」（二八～二〇頁）
 「白露秋分」（甲野欽吾「趣味と実用」 宗近一「生花と歌沢」）（二〇～二三頁上段）
 広目天「新摩鄧女経」（二三頁下段～二四頁下段）
 【第五年十月号（明治四一・一〇・一発行）】
 葦生「姿」の美」（一～三頁）
 木原式部「流行に就て」（三～四頁）
 高木兼寛談「日本間と西洋室」（六～八頁）
 鳩山春子談「流行と趣味」（一〇～一三頁）
 大島宝水「さむさ橋」（一四～一八頁）
 古河生「冥土の飛脚」と「天の綱島」（二〇～二二頁下段）
 まつを「俳優見立」（二二頁下段～二三頁上段）
 【第五年十一月号（明治四一・一一・一発行）】
 工此子「国粹自粹」（一～三頁）
 中鉢美明夫人談「家庭の交際官」（四～八頁）
- 岡田八千代子談「流行に就て」（八～九頁）
 大島宝水「さむさ橋」（一〇～一五頁）
 残花叟（戸川残花）「天保前後の好尚 附たり呉服店四季のほく」（一六～一七頁）
 小通生「円喬と小さん」（一八～一九頁）
 北庵「絵事漫言」（一九～二〇頁）
 双尾蝮「系統党派」（二二～二三頁上段）
 大島宝水「秋と冬」（二三頁下段）
 【第五年十二月号（明治四一・一二・一発行）】
 戸川残花「連想と云ふこと」（一～二頁下段）
 宝水（大島宝水）「冬十句」（二頁下段）
 原礼子談「華手の趣味と地味の趣味」（三～六頁）
 岡野知十「江戸時代の好尚」（七～一頁）
 宝水生（大島宝水）「まはり燈籠（白木屋の店内）」（一一～一五頁）
 てい子「蟆子化物語」（一五～一七頁）
 【第六年一月号（明治四二・一・一発行）】
 戸川残花「歳旦之辞」（一頁）
 大島宝水「新年日記」（二～三頁）
 小枝子「お嫁入り」（一五～二〇頁上段）

【第六年二月号（明治四二・二・一発行）】

大島宝水「如月」（一～二頁下段）

三蝶生（大島宝水）「春八句」（二頁下段）

尺秀三郎談「社交趣味の二方面」（三～八頁）

芙蓉閑人「写真通」（九～二二頁）

さゝふね「女学生風俗」（二二～一六頁）

黒衣子「市村と藤間」（一六～一八頁）

小倉活子「出雲橋」（一八～二〇頁）

【第六年三月号（明治四二・三・一発行）】

岡野知十「合羽と外套」（一～五頁）

高根富女「不折先生の模様就て」（一四～一七頁）

【第六年五月号（明治四二・五・一発行） 四、五月合併号】

一顧客「顧客の見たる四月大売出しの白木屋服店」（二～四頁）

【第六年六月号（明治四二・六・一発行）】

大島宝水「選択と調和」（一～二頁）

流行子「今夏流行の浴衣地」（三～四頁）

某画家「意匠部より」（八～九頁上段）

時代生「風俗劇」（九頁下段～一〇頁）

【第六年七月号（明治四二・七・一発行）】

岡野知十「浴衣」（一～二頁上段）

大島宝水「流行といふこと」（二頁下段～三頁上段）

流行記者「夏の洋服はドンなのが宜しいでせう乎」（四頁下段～八頁）

【第六年八月号（明治四二・八・一発行）】

大島宝水「湯治場向と海水浴向（浴衣の選択に就て）」（一～二頁）

青嵐子「日本趣味」（三～四頁上段）

一画家「色」（四頁下段～五頁）

流行記者「此次ぎにはドンな色が流行乎（色の変遷）」（六～二頁上段）

岡野知十「土用干」（二二頁下段～二四頁上段）

一意匠部員「草双紙の意匠に就て」（二四頁下段～二五頁）

【第六年九月号（明治四二・九・一発行）】

幸堂得知「家紋」（一～二頁上段）

みどり生「紋の種類」（二頁）

流行記者「衣裳美に就て」（二頁下段～五頁上段）

流行記者「靴の話」（五頁下段～一〇頁）

福田琴月「笑話 袷」（二一～二六頁上段）

高崎春月「たづね人」（二六頁下段～二七頁）

【第六年十一月号（明治四二・一一・一発行） 十、十一月合併号】

流行子「冬支度」(一～六頁)

【第六年十二月号(明治四二・二二・一発行)】

饗庭篁村「柄」(一～六頁)

山岸荷葉「夢のやう」(八～二頁上段)

流行記者「歳暮年頭の贈答品(茲に掲げた品に限る)」(一三～一六

頁上段)

樋口二葉「十五分間」(一七～一八頁)

【第七年一月号(明治四三・一・一発行)】

幸田露伴「衣服と支那文学との雑話」(一～六頁上段)

大島宝水「屠蘇綺言」(六頁下段～七頁)

鹿野子「かのこものがたり」(八～九頁上段)

清水晴風「犬の玩具」(九頁下段～二頁)

藤間政弥「着物のきこなし」(一三～一四頁)

長谷川しぐれ「青い桃」(一五～一八頁)

遠藤はつ子「新年の化粧(附其方法及美髪法)」(一九～二二頁上段)

宮崎鉄久「新年茶談」(二二頁上段～二四頁)

上田龍耳「舞の面」(二五頁上段)

中二階「稽古場より」(二五頁下段～二七頁上段)

燕友堂「婦人とたしなみ」(二七頁上段～二八頁下段)

喜久子「江戸時代の女風俗」(二八頁下段～三〇頁上段)

半四「滑稽水滑り」(三〇頁下段～三二頁下段)

黒旋子「初春」(三二頁下段)

流行記者「当店新案八犬伝模様(附模様の変遷)」(三三～三六頁)

【第七年二月号(明治四三・二・一発行)】

岡野知十「物好き」(一～二頁)

青嵐子「流行時言」(三頁)

少店員「お客様曰く」(四～六頁上段)

たき、生「流行記者足下」(六～七頁上段)

大島宝水「春日影」(七頁下段～九頁)

黒旋子「絵暖簾」(九頁下段)

尾上楽之助「化粧の秘訣(附首筋を細く見せる法)」(一〇～一二頁

上段)

高崎春月「問答五題」(一二頁上段～一三頁上段)

鷺山弥生「二月の注意」(一三頁上段～一五頁上段)

かの子「白木百人一首」(一五頁上段～一七頁上段)

【第七年四月号(明治四三・四・一発行)】

樋口二葉「女流の紋」(一～二頁)

三輪田元道「流行といふ事に就いて」(三～六頁上段)

大島宝水「花ざくら」(六頁上段)

大塚楠緒子「花見小袖」(六頁下段)九頁上段)

長谷川岩吉「刺繍の話」(九頁下段)一〇頁)

花廻本宗寿「生花の現在及び未来」(一一)一三頁上段)

桑島千代子「流行の髪かたち」(一二)一三頁上段)一四頁上段)

一店員「鶴の一声」(一四頁)

【第七年五月号(明治四三・五・一発行)】

大島宝水「浴衣の味」(一)一頁)

清談林「江戸時代の浴衣」(三頁)

今村清子談「白人好みの浴衣」(四)一五頁上段)

やなぎ生「浴衣の生蕃」(五頁下段)七頁上段)

小川未明「花の都へ」(七頁下段)一〇頁)

田島芙蓉「如何にせば好い形に写真をとる事が出き得る乎(美人に

写す秘訣)」(一一)一三頁)

楽石生詠「策駒翁判「服装品狂歌合」」(一四)一五頁)

流行記者「此夏はドンな洋服が流行する乎」(一六)一八頁)

【第七年六月号(明治四三・六・一発行)】

岡野知十「服飾の趣味」(一)一三頁上段)

嫩生「女性の帯に就て」(三頁上段)五頁下段)

土岐哀果「下谷より―清少納言の衣服観―」(五頁下段)七頁上

段)

水島尺草「懐旧」(七頁下段)一〇頁)

石橋蔵五郎「家庭と遊戯」(一一)一三頁上段)

はち郎「水砧」(一二)一三頁上段)一四頁上段)

常葉生「夏季の色彩」(一四頁)

流行記者「流行旅行用具(避暑に行く人―帰省する人は必ず読むべ

し)」(一六)一八頁下段)

【第七年七月号(明治四三・七・一発行)】

流行記者「中元の贈答品」(一)一四頁)

竹の屋主人(饗庭簗村)「流行は繰返さず」(五頁)

水あふひ「小唄に現はれたる服装」(六)七頁)

大島宝水「木蔭」(九)一二頁上段)

山陽亭芸生「棚機工場」(一二)一三頁下段)一三頁下段)

常葉居子「狂句」(一二)一三頁下段)

佐原堤華「夏の草花(附其つくり方)」(一四)一五頁)

山田生「諸国の盆踊唄」(一六)一七頁)

EK生「玩具の需要増加と当店玩具部」(一八頁)

【第七年八月号(明治四三・八・一発行)】

流行記者「旅行と服装」(一)一六頁)

麓南生「緋織の進歩」(八頁上段)一〇頁上段)

策駒翁「商品気焔集」(一〇頁上段)一一頁下段)

熊谷無漏「うすもの」(一一頁下段)

【第七年九月号(明治四三・九・一発行)】

岡野知十「男子の服装」(一―三頁上段)

大島宝水「所謂江戸趣味」(三頁上段―四頁上段)

皆雄「東西色本帳」(四頁下段―六頁)

礫水作「痴翁判」呉服店語句合」(七―八頁)

山岸荷葉「約束」(一〇―一二頁)

流行記者「今週の袷」(一三―一四頁下段)

【第七年十月号(明治四三・一〇・一発行)】

大島宝水「表情と好み」(一―二頁下段)

富塚百軒「振袖」(二頁下段―四頁)

紫苑生「秋の歌と服装」(五―六頁)

長谷川時雨「松の葉」(七―一〇頁上段)

魁生「大売出し」(一〇頁下段―一二頁上段)

山陽亭芸生「英雄の驟雨」(二頁下段―四頁上段)

縫女「その折々」(一四頁下段)

流行記者「本年の祝着はどんな傾向になつて居るか」(一五―一七頁)

【第七年十一月号(明治四三・一一・一発行)】

流行記者「当季流行の洋服」(附あづまコート其他)(一―五頁上

段)

富塚百軒「羽織」(五頁上段―八頁下段)

ふたば生「挿櫛の変遷」(八頁下段―一〇頁上段)

みき生「園遊会」(一〇頁下段―一一頁)

露鷹「菊がさね」(一二―一三頁上段)

新人生「西洋に於ける日本品の応用」(一三頁上段―一四頁上段)

流行記者「流行の冬帽と『ショール』」(一六―一八頁下段)

【第八年一月号(明治四四・一・一発行)】

大島宝水「初笑ひ」(一―一八頁)

【第八年二月号(明治四四・二・一発行)】

研究子「着活すといふこと」(一―三頁)

富塚百軒「髪容の変遷」(四―五頁)

樋口二葉「江戸ツ子の今昔」(六―八頁上段)

楽石生詠「渚迺舎判 狂歌合せ」紋切形」(八頁上段―九頁)

土岐哀果「春寒の夢」(一二―一四頁上段)

宝山人「月と海」(一四頁下段―一六頁上段)

【第八年三月号(明治四四・三・一発行)】

流行記者「今春流行の洋服」(一―四頁上段)

岡野知十「セルの袴」(四頁上段―六頁上段)

鶯亭金升「活た雛」(六頁下段)八頁)

山岸荷葉「一分鈴」(二三)一六頁上段)

痴囊子(真木痴囊)「白木屋店難人形」(一六頁上段)一七頁上段)

落花生吟「雜興狂句」(一七頁上段)

落花生「千客万来五目数誌」(一七頁上段)一八頁)

【第八年四月号(明治四四・四・一発行)】

流行記者「暮春の新装(流行の袷)」(一)四頁上段)

田能村秋皐「流行の淵源」(四頁下段)六頁下段)

露軒生「江戸時代芸妓の風俗」(六頁下段)八頁)

鶯亭金升「朝桜」(二三)一四頁)

【第八年五月号(明治四四・五・一発行)】

流行記者「初夏の衣裳(附 浴衣の粹)」(一)三頁)

長谷川時雨「楓の花」(八)一〇頁上段)

鶯亭金升「移り替」(一一)二頁)

川村鳥子「帯と帯揚と帯留と」(二三)一四頁上段)

山本公「女心と田舎唄」(一四頁下段)一五頁)

【第八年六月号(明治四四・六・一発行)】

流行記者「今夏流行の洋服(附 夏季用サーキュラーケープ)」(一)

三頁)

饗庭篁村「染浴衣」(四)五頁上段)

超然生「流行と色盲」(五頁下段)八頁上段)

岡田八千代「麦の穂」(二二)二四頁)

【第八年七月号(明治四四・七・一発行)】

流行記者「中元の贈答品と中元の服装」(一)九頁下段)

西東生「模様の競走」(九頁下段)一二頁)

鶯亭金升「中元の切手」(一三)一四頁下段)

痴囊子(真木痴囊)「白木屋八景」(一四頁下段)一六頁上段)

【第八年八月号(明治四四・八・一発行)】

露伴学人(幸田露伴)「清涼」(一)二頁上段)

岡野知十「避暑と服装」(二頁下段)四頁上段)

土岐哀果「避暑に行くとしたら」(四頁上段)五頁)

流行記者「避暑旅行には何と何を留意すべき乎」(六)八頁)

大島宝水「避暑の宿」(九)一二頁)

鶯亭金升「あまい旅」(一四)一五頁下段)

落花生「避暑地だより」(一六)一七頁下段)

【第八年九月号(明治四四・九・一発行)】

流行記者「秋の袷と羽織」(一)三頁下段)

幸堂得知「冠物及び手拭の沿革」(三頁下段)四頁上段)

樋口二葉「煙管に就て」(四頁上段)七頁上段)

尾島菊子「避暑」(七頁下段)一〇頁)

- 驚亭主人「藤原式模様」(一一～一二頁上段)
痴囊生(真木痴囊)「白木屋呉服店料理献立」(一二頁下段～一三頁)
【第八年十月号(明治四四・一〇・一発行)】
流行記者「今季流行の洋服」(二四～二六頁)
【第八年十一月号(明治四四・一一・一発行)】
(署名記事なし)
【第八年十二月号(明治四四・一二・一発行)】
流行記者「春着の支度」(一～三頁)
某大家談「贈答の美風は隆んならしむべし」(四～五頁上段)
MT生「贈答品としての呉服 太物及洋服地」(五頁上段～六頁上段)
某新婦朝者「現代贈答品の流行児たる雑貨」(六頁上段～七頁上段)
【第九年一月号(明治四五・一・一発行)】
流行記者戯作「白木屋十二ヶ月」(一～七頁)
【第九年二月号(明治四五・二・一発行)】
流行記者「梅見ころも」(一～三頁上段)
加藤東太郎「浄瑠璃名題と衣装」(五頁下段～七頁上段)
樋口二葉「簪のこと」(七頁下段～九頁下段)
中谷徳太郎「着物の色」(九頁下段～一頁下段)
高木正枝「半襟と長襦袢」(一頁下段～三頁)
【第九年三月号(明治四五・三・一発行)】
流行記者「当季流行の洋服」(一～五頁上段)
惺々生「色彩の変遷」(五頁下段～八頁上段)
雲雀笛「新しい歌と服装」(八頁上段～一頁上段)
落花生「おも白木言葉の色彩」(一頁上段～二頁下段)
【第九年四月号(明治四五・四・一発行)】
流行記者「花見ころも」(一～三頁下段)
田村とし子「あねの恋」(一四～一八頁)
【第九年五月号(明治四五・五・一発行)】
流行記者「初夏の召物」(一～三頁上段)
星月夜「武士的趣味」(七～九頁上段)
尾島菊子「糸子の支度」(九頁下段～二頁上段)
【第九年六月号(明治四五・六・一発行)】
流行記者「水無月の御衣裳(附 浴衣の粋)」(一～四頁)
驚亭金升「片身替りの浴衣」(二頁下段～三頁上段)
三島きぬ子「三色董」(二三頁下段～一五頁)
【第九年八月号(明治四五・七・二五発行)】
流行記者「避暑御旅行必携品」(一五～二頁上段)

岡田八千代「竹子」(二八～三〇頁)

【第九年九月号(大正元・八・二五発行)】

流行記者「初秋用の外套類」(一～四頁上段)

惺々生「旅人より」(四頁下段～八頁上段)

【第九年十月号(大正元・九・二五発行)】

流行記者「初冬の礼装及訪問用の召物」(一～三頁)

長谷川時雨「マントの夢」(六～九頁上段)

【第九年十一月号(大正元・一〇・二五発行)】

流行記者「当季流行の洋服」(一～四頁上段)

由可梨生「美しい東京」(四頁上段～六頁)

【第九年十二月号(大正元・一一・二五発行)】

流行記者「春着の用意」(一～四頁下段)

吾亦紅「色よ模様よ」(二六～二七頁)

こしな訳「森の女神」(二七頁下段～二九頁)

【第十年一月号(大正元・一二・二五発行)】

(署名記事なし)

【第十年二月号(大正二・一・二五発行)】

流行記者「きさらぎの召し物」(一～二頁下段)

TA生「衣裳ことば」(二頁下段～四頁上段)

大島宝水「そのをり」(四頁)

【第十年三月号(大正二・二・二五発行)】

惺々生「模様と人格」(一～三頁上段)

大島宝水「着道楽」(七頁下段～一二頁)

【第十年四月号(大正二・三・二五発行)】

流行記者「今季の洋服はドンナのが宜しい乎」(一～五頁)

惺々生「模様と人格(つゞき)」(六～七頁)

【第十年六月号(大正二・五・二五発行)】

流行記者「夏襟と薄物」(一～四頁上段)

土岐哀果「更衣」(四頁上段～五頁)

菊女「浴衣」(一一頁下段)

【第十年七月号(大正二・六・二五発行)】

吾亦紅「夏の色彩(附。秋の準備)」(一～三頁上段)

横瀬冬海「岐阜提灯」(三頁下段)

【第十年八月号(大正二・七・二五発行)】

流行記者「旅行と御用意」(一～八頁上段)

岡野知十「江戸式といふ事につき」(八頁上段～一一頁下段)

【第十年九月号(大正二・八・二五発行)】

大島宝水「幟と帯と緞帳」(一～四頁上段)

樋口二葉「菊合せと勝菊の模様」(四頁上段～六頁)

痴囊(真木痴囊)「装飾品狂歌合」(七～八頁)

- 【第十年十月号（大正二・九・二五発行）】
流行記者「流行の冬物」(一)～三頁)
惺々生「衣服美」(五頁上段～六頁下段)
横瀬冬海「鏡」(六頁下段)
大島宝水「紹介状」(九頁下段～一二頁)
【第十年十一月号（大正二・一〇・二五発行）】
流行記者「和洋服の外套」(附。少年男女洋服) (一)～四頁上段)
大島宝水「紹介状」(四頁下段～八頁)
渚迺家主人「衣裳類俚謡集略解」(九)～一〇頁上段)
【第十年十二月号（大正二・一一・二五発行）】
大島宝水「紹介状」(二四)～二七頁)
横瀬冬海「春待」(二七頁下段)
【第十一年一月号（大正三・一二・二五発行）】
岡野知十「社頭衫」(一)～三頁上段)
大島宝水「羽子板考」(三頁下段～五頁上段)
樋口二葉「着衣初め」(五頁上段～七頁上段)
吾亦紅「平安の春粧」(七頁上段～八頁)
【第十一年二月号（大正三・一・二五発行）】
流行記者「模様と紋様」(一)～二頁下段)
土岐哀果「梅花と服装」(二頁下段～四頁下段)
大島宝水「梅十句」(四頁下段)
【第十一年三月号（大正三・二・二五発行）】
流行記者「博覧会時の召し物」(附。花見衣裳の老若両様見立) (一)～三頁)
大島宝水「浦島後日物語」(六)～一〇頁)
【第十一年四月号（大正三・四・一発行）】 東京大正博覧会と白木屋
流行記者「博覧会と流行の洋服」(附。洋服着用心得) (一)～八頁)
【第十一年五月号（大正三・五・一発行）】
流行記者「端午粽の模様」(一)～三頁)
【第十一年六月号（大正三・六・一発行）】
流行記者「夏季の召物」(一)～二頁)
【第十一年七月号（大正三・七・一発行）】
(署名記事なし)
【第十一年八月号（大正三・八・一発行）】
雑貨部店員「御旅行用品」(一)～六頁)
【第十一年九月号（大正三・九・三発行）】
【第十一年十月号（大正三・一〇・一発行）】
【第十一年十一月号（大正三・一一・一発行）】
【第十一年十二月号（大正三・一二・一発行）】

- 【第十二年一月号（大正四・一・一発行）】
 【第十二年二月号（大正四・二・一発行）】
 【第十二年三月号（大正四・三・一発行）】
 （署名記事なし）
 【第十二年四月号（大正四・四・一発行）】
 流行記者「花見小袖」（三～五頁）
 【第十二年五月号（大正四・五・一発行）】
 （署名記事なし）
 【第十二年六月号（大正四・六・一発行）】
 伊藤忠太「現代的天平模様」（二～四頁）
 関野貞「題材手法自由自在」（四～七頁）
 鳥居龍蔵「天平模様と安土桃山」（七～一頁）
 鍋木清方「絵になる夏の下町の女」（二〇～二二頁）
 山村耕花「当世婦人百態の一つ」（二二～三三頁）
 【第十二年七月号（大正四・七・一発行）】
 榎田十次郎「健康者は海へ弱い人は山へ」（三四～三六頁）
 西巻治一郎「神経過敏の人は山へ行け」（三七～三八頁）
 【第十二年八月号（大正四・八・一発行）】
 田口掬汀「天下の楽土」（二四～三七頁）
 松村暲「南洋新占領地の奇習」（三八～四〇頁）

牧野富太郎「雲表の楽園」（四一～四五頁）

【第十二年九月号（大正四・九・一発行）】
 三好学「秋草の話」（二一～二七頁）

【第十二年十月号（大正四・一〇・一発行）】
 （署名記事なし）

【第十二年十一月号（大正四・一一・一発行）】
 川瀬善太郎「声の鹿と形の鹿」（四二～四五頁）

【第十二年十二月号（大正四・一二・一発行）】
 （署名記事なし）

【第十三卷第二号（大正五・二・一発行）】
 鳥居龍蔵「南方支那民族の風俗習慣（上）」（二四～二九頁）

【第十三卷第三号（大正五・二・一発行）】
 吉田美風「甘党瑣談——全国名産菓子陳列会を見たる日」（二八～二九頁）

鳥居龍蔵「南方支那民族の風俗習慣（中）」（三一～三九頁）
 【第十三卷第四号（大正五・四・一発行）】

雷曼居「陣中の誕生祝ひ」（三〇～三二頁）
 鳥居龍蔵「南方支那民族の風俗習慣（下）」（四一～四五頁）

【第十三卷第五号（大正五・五・一発行）】
 （署名記事なし）

- 【第十三卷第六号（大正五・六・一発行）】
 観世善之「謡曲より見たる裾模様 の価値」(二―三頁)
 高浜虚子「落ちと機智に富む謡曲模様」(三―五頁)
 河合英忠「謡曲趣味は長唄にも通ふ」(五―六頁)
 宮川兼次郎「深川親和と親和染」(九―一二頁)
 【第十三卷第七号（大正五・七・一発行）】
 (署名記事なし)
 【第十三卷第八号（大正五・八・一発行）】
 鳥居龍蔵「江戸時代の江戸の風俗」(二〇―二九頁)
 △子「頭髮衛生の事ども」(三三―三六頁)
 桑原雷晏「探涼プラタナ並記」(三七―四〇頁)
 【第十三卷第九号（大正五・九・一発行）】
 白木屋流行子「謡曲模様と其情緒」(二五―二九頁)
 雷晏居「武蔵野一周の印象」(三三頁)
 【第十三卷第十号（大正五・一〇・一発行）】
 【第十三卷第十一号（大正五・一一・一発行）】
 (署名記事なし)
 【第十三卷第十二号（大正五・一二・一発行）】
 石樽千亦「古人の読める遠山雪」(二五―二八頁)
 大口綱二「勅題遠山雪」(二八―二九頁)
- 【第十四卷第一号（大正六・一・一発行）】
 山東迂人「雪国の雪」(二四―二七頁)
 雷晏居「村の春とんどの囃し」(二八―三一頁)
 奥田照子「日本の婦人服に就て」(三一―三三頁上段)
 坂本園子「御前謡曲と押絵羽子板」(三三頁上段―三四頁)
 初瀬浪子「錦絵模様の春衣裳」(三五頁)
 擎灯生「絵物語百人一首」(三六―三七頁)
 松崎双葉「正月の儀式と諸飾り」(四二―四五頁)
 豊川豊洲「千支菓子と勅題菓子」(四六―四七頁)
 緑川幸二郎「正月の重詰料理」(四八―五〇頁)
 【第十四卷第二号（大正六・二・一発行）】
 △子「皮膚の荒れ止めと化粧品」(二六―二八頁)
 西沢笛畝「雑祭と雛人形に就て」(二九―三四頁)
 根岸巷人「絵の話(どんなものがよいだらう)」(三五―三七頁)
 橋頭庵「日本全国甘党行脚―日本橋に集る諸国の名菓」(三八―四三頁)
 三頁)
 【第十四卷第三号（大正六・三・一発行）】
 桑原雷晏「昔の纏織と今の絞りに対する研究資料」(上)(四二―四四頁)
 【第十四卷第四号（大正六・四・一発行）】

流行記者「傘の女 夏帽男 お花見散策用としての小道具や如

何？」(四一―四五頁)

【第十四卷第五号(大正六・五・一発行)】

大庭柯公「三越と白木」(四〇頁)

【第十四卷第六号(大正六・六・一発行)】

大口周魚「和歌模様に対する希望」(二―三頁)

佐々木信綱「和歌模様の題材に就きて」(四―六頁)

関根正直「文字を避けたる歌模様」(六―七頁)

【第十四卷第七号(大正六・七・一発行)】

【第十四卷第八号(大正六・八・一発行)】

【第十四卷第九号(大正六・九・一発行)】

【第十四卷第十号(大正六・一〇・一発行)】

【第十四卷第十一号(大正六・一一・一発行)】

【第十四卷第十二号(大正六・一二・一発行)】

【第十五卷第一号(大正七・一・一発行)】

【第十五卷第二号(大正七・二・一発行)】

(署名記事なし)